



臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

インスリン注射50周年の患者さんに
インタビューしました！

[当法人理事]

多摩センタークリニックみらい

藤井 仁美 [医師]

コロナ禍最中ではあったが、当院では某インスリン会社が毎年表彰している「インスリン注射50年賞」の受賞者を招いて、職員数人の小規模ながら、院内で受賞インタビューを開いた(その様子を録画してYouTubeで限定公開中である)。

多摩地域で初の受賞らしい。3歳発症の1型糖尿病と聞いていたので、もしや？と思って本人に再確認、ぴったり50年だった！話を聞くと、旧東ドイツの出身で、15年ほど前に来日したそう。ヨーロッパ糖尿病学会(EASD)でベルリンに行った時のことを思い出す。森鷗外の足跡を訪ねたり、医学部の医学史(?)博物館で延々と続く臓器のホルマリン漬けに圧倒されたのを思い出した。学会発表などでドイツのインスリン療法は「重厚な」印象がある。2型糖尿病の患者であっても混合製剤などは使わず、きっちり4回インスリン強化療法をしている感じなのだ(あくまで私の印象で、真実かどうかはわからないが)。患者さんにインタビューをするうち、そんなイメージを思い出した。

けがで入院した病棟で、夜中に花瓶の水を飲んでるのを発見され診断がついた話。パンその他1gの単位まできっちり切り分けられた食事をしてたこと(日本でもアメリカでも、当時はそんなものだったかもしれないが)、体育は見学、映画を見に行っても途中で注射と食事のために帰らなければいけなかった話、そのせいで図書館に入り浸って医学書に至るまで糖尿病を勉強した青春時代。ベルリンの壁が打ち破られたのち、「国産」インスリンだけではなく、血糖測定器やディスポーザブルの注射器を手に入れ、やがてはオランダ製その他のインスリンポンプを手に入れた。ポンプ使用待機者リストの上位であった(ポンプ導入前は毎日10回以上測定やインスリン注射をしていた)。ポンプが手に入ると教育入院1か月を過ごす。その間テニスに出かけたり、ビールを飲んで帰って来てはインスリンの打ち方をほかの患者や主治医と検討する入院生活だった。インスリンポンプを自由に操るには自分で絶食試験をしたり、血糖測定をするのが必須であり、ドイツの保険では血糖測定センサーは上限なく使用できる(この場面で日本の医療制度は厳しく批判された)。代わりに毎月のログブックの提出が義務付けられている、自己モニターができない人はポンプ治療の対象にはならないのだ。ポンプ会社もクラウドができる以前から、患者の要請に応じてポンプのデータをアウトプットしながら問題点を話し合ってきた。ドイツ人気質と言えるのか…そんな話を聞きながら、「インスリンを注射して50年、疲れちゃうことはなかったのですか？」という問いに、そういう時は、「糖尿病を休む」との答え。食前に3回のボーラスと定量のベーサルインスリンが入っていれば、昏睡になったりすることはない。血糖が高くて、それをやり過ぎ、のんびり生活を楽しむ日があってもいい。そんな「達人」のメッセージだった。



読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。

(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部変更しております。)

問題 糖尿病の検査について正しいのはどれか、1つ選べ。

(答えは2ページにあります)

1. 空腹時血糖とは6時間以上絶食させた後の血糖である
2. インスリン療法中のインスリン分泌能評価には、血中IRIが有用である
3. 血糖が上昇すると1.5-AGは上昇する
4. 血糖値の変動があっても、平均血糖値が同じであれば、HbA1cは同じである
5. 鉄欠乏状態が回復期にある患者のHbA1cは平均血糖値に比べ高めになる



報告

第13回多摩糖尿病先端医療研究会Online Seminar

日時: 令和3年1月29日(金)
オンライン

[当法人理事] 武蔵野赤十字病院 杉山 徹 [医師]

「心血管イベントリスクのある2型糖尿病患者に対する治療アプローチ」をテーマに、WebExオンラインシステムを利用して開催し、77名(医師19名、スタッフ59名)に参加いただきました。

はじめの特別講演では、東京医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科学分野主任教授の鈴木 亮先生をお招きし、『糖尿病治療の個別化:最適な治療を探るために』というご演題で①Clinical Inertiaの回避することの重要性、②低血糖リスクへの配慮と回避、③高齢者糖尿病の薬剤選択、④治療の個別化と最適化について丁寧に分かりやすくお話いただきました。

その後のディスカッションでは、仮想症例を提示したうえで、ポーティングシステムを使用して、治療や療養指導の方針についての質問に対して参加者に回答していただきました。ディスカッサントとして東京医科大学の鈴木教授と杏林大学 糖尿病・内分泌・代謝内科講師の近藤 琢磨先生にご参加いただき、回答結果へのコメントや解説をしていただきました。高血圧や脂質異常症を合併した2型糖尿病患者に対して、①どのような治療を検討するか?②どのような生活習慣への介入を検討するか?③糖尿病治療薬を開始する際に何を選ぶか?④糖尿病治療薬を選択するうえで最も重要視する情報は何か?⑤SGLT2阻害薬を選択する際に最も気になる点は?という質問に対して多くの参加者に回答いただき、意見がやや分かれるものもありましたが、ディスカッサントの先生に一つ一つ丁寧に解説いただいたことで、実臨床における治療・療養指導の考え方を患者像をイメージしながら学んでいただけだと思います。参加者からも大変良いご感想をいただきました。

心血管イベントリスクのある2型糖尿病患者へのより良いアプローチには、各メディカルスタッフそれぞれのサポートによる患者個々に見合った介入が必要であることを改めて学べた会となりました。



報告

西東京CDEの会 第19回症例検討会

日時: 令和3年2月3日(水)
オンライン

[当法人会員] 武蔵野赤十字病院 志賀 和美 [看護師]

2月3日(水)に『西東京CDEの会・第19回症例検討会』が、新型コロナウイルス感染拡大に配慮して、オンライン(Zoom)にて開催されました。今回は「新たな生活様式を見据えた糖尿病支援を考えよう〜コメディカルの専門知識を集める会〜」というテーマのもと、看護師、薬剤師、管理栄養士等の多職種の方々32名の参加がありました。

まず初めに武蔵野赤十字病院・内分泌代謝科の杉山 徹先生より「Withコロナ時代における糖尿病診療」と題して、新型コロナウイルス感染症と糖尿病の関係や、様々なデータを基に糖尿病患者さんと医療者を取り巻く現状について講義していただきました。症例は、コロナ禍で関わりに悩んだ、2症例を紹介しました。新型コロナウイルスに感染し入院となった1型糖尿病の症例は、発症前の血糖コントロールが良好であったため重症化せずに退院となったが、十分に注意していたにも関わらず感染したことに落胆する患者と、コロナ病棟の多重業務により十分に関わりができなかった医療者のジレンマが語られました。その後、チャットによる質疑応答を通して、他職種によるディスカッションが行われました。例えば、コロナ禍で普段通りにインスリンの指導や食事指導ができない

際に行った工夫等、明日からの療養指導へのヒントとなる意見も多く聞かれました。後日メールでいただいたアンケートでは、概ね参加目的は達成されたとの意見で、オンラインでの開催についても、「移動の時間がないことで参加しやすい」「感染の不安がなく参加できる」との意見が聞かれました。

今後はいつもの症例検討会の様にグループワークを取り入れるなど、内容の検討を行いたと思います。ご参加できなかった方は、次回は是非ご参加ください。





第55回糖尿病学の進歩

令和3年3月5日(金)～6日(土)

Web開催

[当法人理事]

杏林大学医学部付属病院

小林 庸子 [薬剤師]

以下の発表を報告する。

セッション名:特別企画2 チームによる糖尿病診療:現場からの提言

演題名:「薬剤師の立場から:糖尿病診療への薬剤師の関与」

約20年前に糖尿病チームが発足し、薬剤師がチームの一員として活動している。病棟および外来での薬剤師の糖尿病診療への関与について報告する。

1. 糖尿病療養指導外来

「血糖自己測定の針と試験紙を1か所で渡す」ことを目的とし、糖尿病内科の医師の診察室の並びに開設した「糖尿病療養指導士」の外来では、開設当初より薬剤師も担当となった。「糖尿病透析予防指導管理料」は、薬剤師の指導は算定可能な職種ではないが、看護師が同席し、腎機能を考慮した薬剤の問題点の抽出や服薬に関する指導を行っている。

また、産科で妊娠糖尿病と診断された場合や、糖尿病合併妊娠の症例に対しては、「GDM導入シート」に基づき、その時々に必要な内容で指導する。

2. 糖尿病教室

糖尿病の治療と教育を目的とした「教育入院」は、多職種が2週間のカリキュラムで講義を担当している。薬剤師は「薬物療法」の講義を担当し、様々な病態の参加者に共通する、内服薬や注射薬の豆知識や、災害対策やイベント時に必要な薬剤の管理などについて説明している。

3. 病棟業務

病院薬剤師の主な業務は、「薬剤管理指導業務」と「病棟薬剤業務」である。現在は、各病棟に薬剤師の配置が必須となったため、産科病棟の担当となった。約12%はGDMと言われるが、産科病棟では、常に4～5名のインスリン使用症例が入院している。切迫早産などの長期入院症例へのインスリン導入する頻度は、内科病棟担当だった頃よりかなり多い印象である。

4. チームカンファレンス

「糖尿病透析予防カンファレンス」は、カンファレンスの開催が算定要件となっている。医師・看護師・管理栄養士・臨床検査技師・理学療法士・薬剤師が参加し、次の外来に繋がるように検討している。

また、妊娠糖尿病や糖尿病合併妊娠の症例の情報を共有する目的で、「産科・糖尿病内科連携会議」が毎月開催され、糖尿病内科医師・産科医師・看護師・助産師・管理栄養士・薬剤師が参加している。妊婦の精神的なケアを含めた対応が可能となっていると考える。

糖尿病療養指導外来

(1)血糖自己測定の針・試験紙の配布
(2)各種療養指導

- ①初診指導(糖尿病とは・コントロールの指標)
- ②SMBG・インスリン・GLP-1導入(カリカルパス)
- ③低血糖・シックデイ・生活の振り返り
- ④フットケア
- ⑤透析予防管理
- ⑥妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠
- ⑦入院オリエンテーション

薬剤師の業務業務(療養病棟)

現在、産科病棟を担当しています

- ①産科病棟での業務
 - ①産科病棟での業務
 - ②産科病棟での業務
 - ③産科病棟での業務
 - ④産科病棟での業務
 - ⑤産科病棟での業務
 - ⑥産科病棟での業務
 - ⑦産科病棟での業務
 - ⑧産科病棟での業務
 - ⑨産科病棟での業務
 - ⑩産科病棟での業務

西東京地域での活動

活動の目的は、地域住民の健康増進と、糖尿病の予防・治療の啓発です。

- ①健康講座
- ②血糖値測定
- ③薬剤相談
- ④産科・糖尿病内科連携会議
- ⑤産科・糖尿病内科連携会議
- ⑥産科・糖尿病内科連携会議
- ⑦産科・糖尿病内科連携会議
- ⑧産科・糖尿病内科連携会議
- ⑨産科・糖尿病内科連携会議
- ⑩産科・糖尿病内科連携会議

読んで
単位を
獲得しよう

答え 4

下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説 回答:④ HbA1cは平均血糖値を反映するため、血糖値の揺れ幅はわかりません。

1. 空腹時血糖とは10時間以上絶食した後の血糖値です。
2. インスリン療法中の自己インスリン分泌能はC-ペプチドで見るほうが良いでしょう。
3. 血糖値が上昇すると1.5AGの再吸収が追い付かなくなり血中濃度は低下してゆきます。1.5AG血中濃度の低下は血糖値180mg/dl以上の存在が考えられます。
4. ○
5. HbA1cはヘモグロビンのターンオーバー(寿命)に左右されるので鉄欠乏性貧血回復期には低めに出ることが多いようです。未治療の鉄欠乏性貧血では高めに出ることが多いようです。

研究会等のセミナー・イベント情報

 主催事業
 共催・後援事業
 その他

 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第20回研修会

 申込必要

テーマ：『血糖曲線から生活療養・薬物療法を探る～患者教育と多職種連携のあり方』

開催日：2021年6月1日（火）19：20～21：00

参加方法：Zoomにて開催いたします

参加費：当法人会員 1,000円 / 一般 1,500円

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください（6/1締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

 オン
 ライン

 一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 第69回例会

 申込必要

テーマ：『コロナ時代に臨む医療連携と療養指導の新形式』

開催日：2021年6月10日（木）19：20～21：00

参加方法：Zoomにて開催いたします

参加費：当法人会員 無料 / 一般 2,000円

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください（6/5締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

☆日糖協療養指導医取得のための講習会

 参加費
 無料

 オン
 ライン

 西東京CDEの会 第19回例会

 申込必要

テーマ：『新しい「糖尿病診療ガイドライン」と「糖尿病治療ガイド2020-2021」を解説します！』

開催日：2021年6月12日（土）15：30～19：00

参加方法：Zoomにて開催いたします

参加費：当法人会員 2,000円 / 一般 4,000円

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください（6/2締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

 オン
 ライン

 第6回 薬剤師による既往歴妊娠糖尿病を考える会～糖尿病発症予防のために～

 申込必要

開催日：2021年6月14日（月）19：30～21：00

参加方法：Zoomにて開催いたします

参加費：当法人会員 1,000円 / 一般 2,000円

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください。（6/9締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

 オン
 ライン

 2021年度 西東京糖尿病療養指導プログラム(CDEJ1群)

 申込必要

第17回 西東京教育看護研修会

第5回 西東京臨床検査研修会

第17回 西東京病態栄養研修会

第5回 西東京運動療法研修会

第17回 西東京薬剤研修会

開催日：2021年7月11日（日）9：40～16：35

参加方法：Zoomにて開催いたします

参加費：早割[申込開始～5/23] 6,000円 / 通常[5/24～7/5] 7,000円

申込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」または「新着情報」の

「2021年度 西東京糖尿病療養指導プログラムのお申し込みはこちらから」よりお申し込みください。（7/5締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第1群>：申請中

 オン
 ライン

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
 〒185-0012
 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
 TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
<https://www.cad-net.jp/>
 Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



皆さん、新型コロナウイルスのワクチンは接種されましたか？自分は3月に2回の接種を終えました。COVID-19の診療を行う上ではある種の安心感を得られていますが、本来の生活に戻れる日は当然ながらまだまだ遠いようです。歓送迎会などが普通にできていた日々を懐かしみつつ、COVID-19に罹患しない・罹患させないために、自粛も含めて自分にできることをやっていくしかないよなあと思う今日この頃です。（広報委員 佐藤 文紀）